

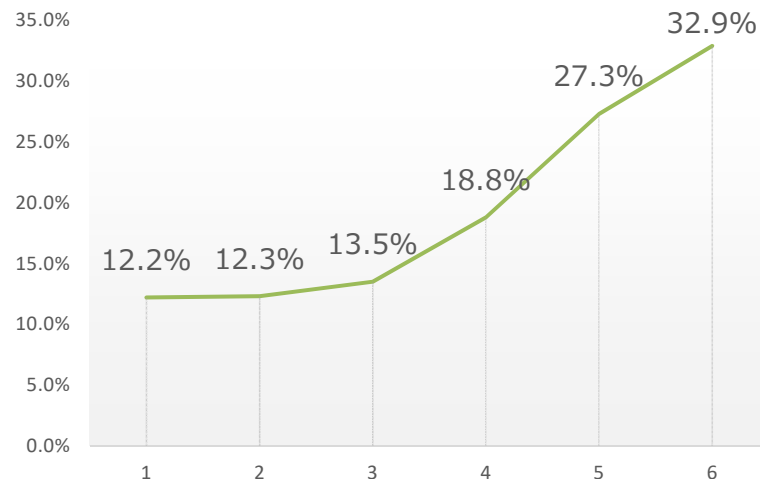
SDGs宣言をスローガンで終わらせないために

本資料は、「統合報告、SDGsセミナー」講演資料のサマリー版となります。

国連によるSDGsの公表から5年 SDGsの認知度は一貫して上昇

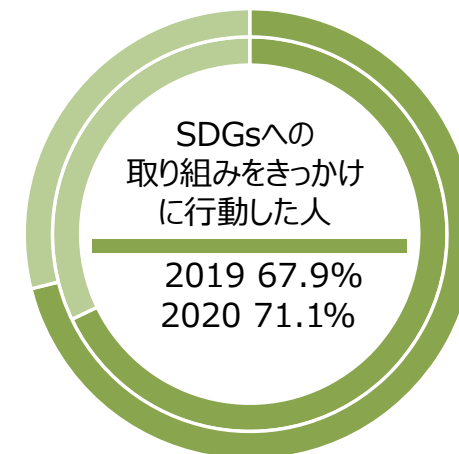
**SDGsの認知度は、生産年齢人口の約1/3にあたる割合まで到達
企業のSDGsへの取り組みが生活者の行動に影響を与える時代に**

Q. SDGsという言葉聞いたことがあるか



朝日新聞「SDGs認知度調査（第6回）」より凸版印刷作成

企業のSDGsに対する取り組みを知り行動した人※の割合



■ 1 ■ 2

※行動の一例
その企業や、商品・サービスのウェブサイトを開覧
するようになった
その企業の商品やサービスを購入または利用した
その企業や、商品・サービスの評判を検索するよう
になった など

企業広報戦略研究所「2020年度 ESG/SDGsに関する意識調査」
より凸版印刷作成

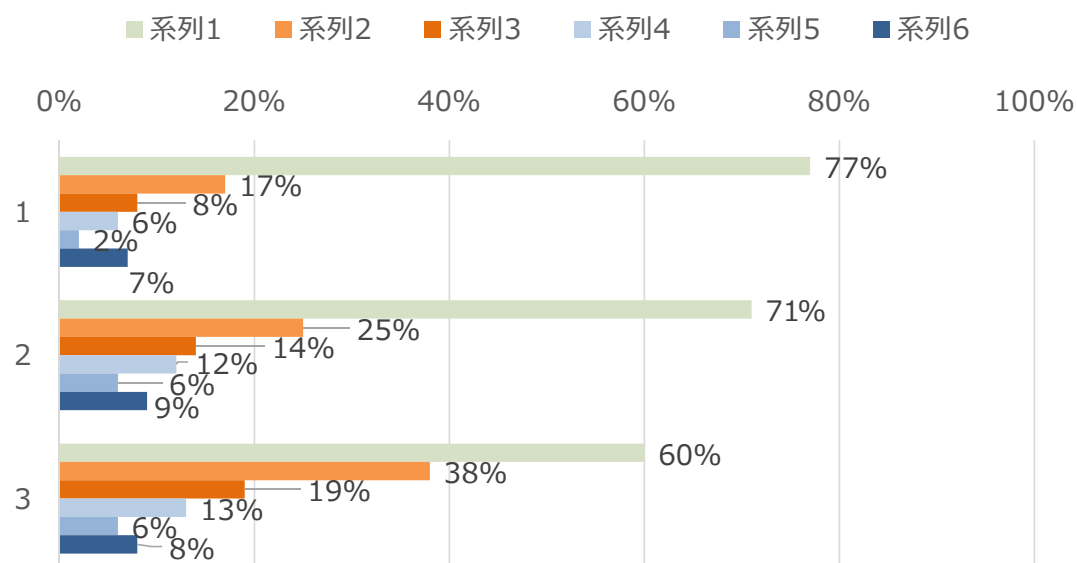
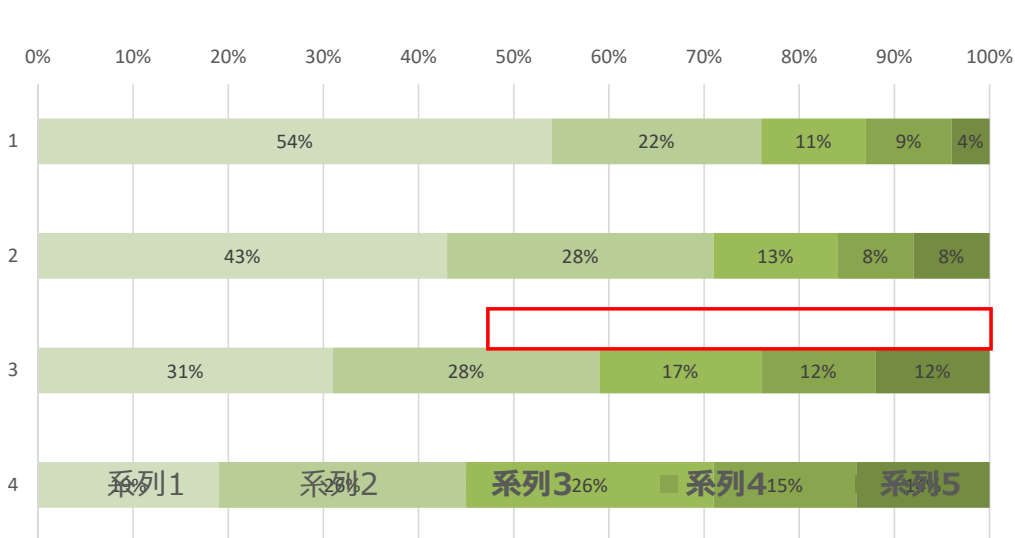
SDGsを経営課題と考える企業は着実に増加

SDG Compassにおける実行フェーズである**ステップ3、4、5**にある企業が過半数

**SDGs推進活動の主体がCSR部門から、経営企画部門やCEOへ
事業部門による推進も一定割合で定着**

Q. 貴社・団体は「SDG Compass」で定義されている
どのステップに現状ありますか？

Q. 貴社・団体内でのSDGsの推進活動は、どちらの組織が主体
ですか？（複数回答）



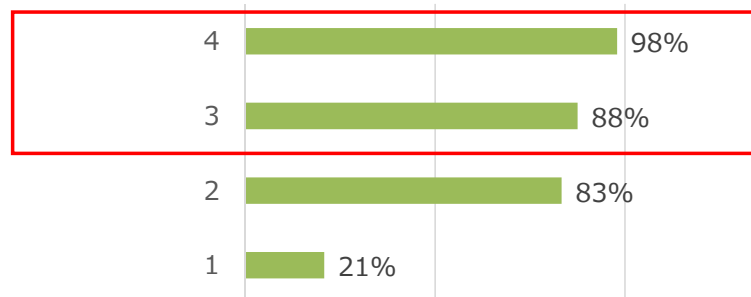
2020年度GCNJ/IGES共同調査レポート

「ESG時代におけるSDGsとビジネス ～日本における企業・団体の取組み現場から～」より凸版印刷作成

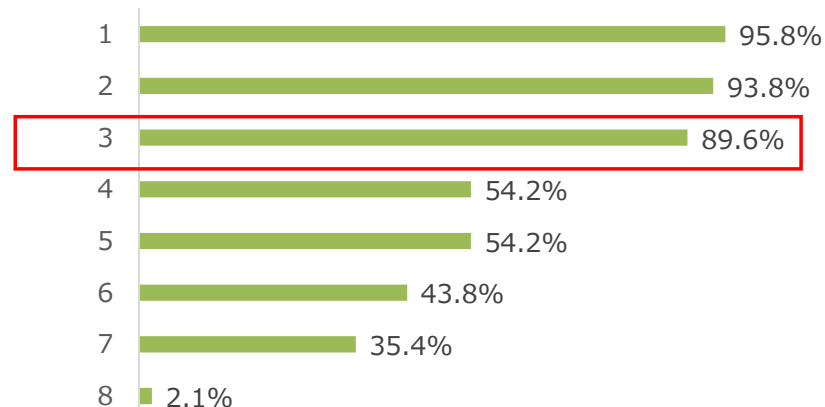
資本市場からは、リスク低減だけでなく、リターン獲得の面でも期待が集まる

国内外の主な運用機関等48社を対象としたアンケート調査では、
投資機関の97.9%がESG情報を投資判断に活用。またリスク低減、リターン獲得の両面で参照
重視する国際的イニシアティブの上位にSDGsが挙がった

Q. ESG情報の投資判断への活用目的・理由をお答えください。



Q. ESGを投資判断やエンゲージメントにおいて考慮する上で、重視している国際的なイニシアティブ等をお答えください。



経済産業省
「ESG投資に関する運用機関向けアンケート調査」より凸版印刷作成

SDGs宣言で終わらせないために SDGs優良企業の取り組みは？

SDGコンパスのステップに沿って、
主に日経SDGs経営調査における上位企業を調査し、
優秀な取り組みを中心にご紹介します

STEP 1

- SDGsを理解する

STEP 2

- 優先課題を決定する
- バリューチェーンをマッピングし、影響領域を特定する（リスクと機会）
- 指標を選択し、データを収集する（マテリアリティマッピング）
- 優先課題を決定する

STEP 3

- 目標を設定する
- 目標範囲を設定し、KPI（主要業績評価指標）を選択する
- ベースラインを設定し、
- 目標タイプを選択する
- 意欲度を設定する
- SDGs へのコミットメントを公表する

STEP 4

- 経営へ統合する
- 持続可能な目標を企業に定着させる
- 全ての部門に持続可能性を組み込む
- パートナースhipに取り組む

STEP 5

- 報告とコミュニケーションを行う
- 効果的な報告とコミュニケーションを行う
- SDGs 達成度についてコミュニケーションを

STEP 2

- **優先課題を決定する**
- バリューチェーンをマッピングし、影響領域を特定する（リスクと機会）
- 指標を選択し、データを収集する（マテリアリティマッピング）
- 優先課題を決定する

Case study

- **JSR様**
- **札幌ドーム様**

各事業が社会に与えるポジティブ・ネガティブインパクトを調査・ディスカッション その上でグループ全体のインパクトを把握

JSRサステナビリティ・チャレンジ

JSR様

各事業部ヒアリング調査

5事業部ごとにポジティブ・ネガティブインパクトについてヒアリング調査とディスカッションを実施

エラストマー

合成樹脂

電材

ディスプレイ

ライフサイエンス

- ✓ 5事業部別にポジティブ・ネガティブインパクトをバリューチェーンで把握
- ✓ ポジティブインパクトについてはディスカッションしながら仮に組み立て

事業部合同ディスカッション

JSRグループとしてポジティブ・ネガティブインパクトを把握

5事業をまとめ
グループ全体として
ネガティブ・ポジティブ
両インパクトをまとめる

- ✓ 5事業のポジティブ・ネガティブインパクトを統合してJSRグループとしてまとめ
- ✓ ネガティブインパクトをポジティブインパクトでどのようにカバーできるかを検討まとめ

- ・ JSRグループ全体でのポジティブ・ネガティブインパクト把握
- ・ ネガティブを帳消しにするかさらに上回るポジティブインパクトの設定検討(仮提案)

新中期経営計画策定と
ESG情報開示に活用

JSR株式会社「サステナビリティレポート2020」より引用
<https://www.jsr.co.jp/csr/2020/issues/index.shtml>



バリューチェーンに基づいて社会に与えるインパクトを報告 その上でマテリアリティとの関係性を説明

「JSRサステナビリティ・チャレンジ」概要



JSR株式会社「サステナビリティレポート2020」より引用
<https://www.jsr.co.jp/csr/2020/issues/index.shtml>

札幌ドーム様

ワークショップ形式で社員が自社の事業の棚卸を行い、 その上で今後の会社の成長にとって重要性をディスカッション

SDGsワークショップ

マテリアリティ整理

グループワーク1

参加者はそれぞれ、あらかじめ自社の活動について整理したシートを持参しました。12名がA・B・Cの3グループ、各4名に分かれて1回目のグループワークを実施。これからの札幌ドームにとって何が重要か、各自が自身の業務から感じることを中心に発言し、SDGsの目標の中で優先順位が高いものを、グループとしてピックアップし発表を行いました。AグループとCグループは、同じく目標3、7、11、12、17をあげ、Bグループは3、4、

12、15、17をあげており、3グループに共通した、優先順位が高い目標は3、12、17となりました。

このグループワーク1の後、ファシリテーターの今津氏から「国運はオリンピックなどのメガスポーツにおいて、食材や木材等の調達に、社会や環境への配慮を求めている」「自分たちのみではなく、サプライチェーン全体で考えるのが、グローバルな考え方として浸透している」といった現況が紹介され、参加者はより広い考え方をするための参考となりました。

グループワーク2

2回目のグループワークでは当社の「経営理念」「事業活動」と「SDGs・グローバルの流れ・サプライチェーン・バリューチェーン」の3つの観点から、2030～2050年に向けて重要な目標を考えました。グループワーク1で選んだ目標の入れ替えも可とし、「社会からの関心・期待・要請」を縦軸とし、「札幌ドームにとって重要かつ社会へのインパクト」を横軸としたマトリックスに目標を落とし込む作業を行い、各グループの結論は下記ようになりました。

3グループが共通して座標の右上に位置させた3つの目標は、3「すべての人に健康と福祉を」、11「住み続けられるまちづくりを」、17「パートナーシップで目標を達成しよう」で、これらが、札幌ドームがこれから強化していくポイントと考えられました。

グループワーク1で選んだ目標をもとに重要度を再討論



各グループとも全員が活発に発言し、目標の重要度を決定

札幌ドームにとって最も重要な目標は
3,11,17と位置づけ



A・B・Cの3グループに分かれて討論



グループそれぞれ、討論結果を発表



株式会社札幌ドーム「札幌ドームレポート2019」P7,8より引用

有識者と役員とのミーティングによりステークホルダーの意見を踏まえ、 中期経営計画でマテリアリティを整理

SDGs役員ミーティング



外部有識者と当社役員らが2時間にわたって話し合いました



黒田 かおり氏
（一般財団法人CSOネットワーク 事務局長・理事／一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク[SDGsジャパン]代表理事）

代表取締役社長
山川 広行



常務取締役
吉田 圭吾



常務取締役
手島 久仁彦



マテリアリティ決定



札幌ドームレポート2019が
第23回環境コミュニケーション大賞
環境報告部門「優良賞」受賞

株式会社札幌ドーム「札幌ドームレポート2019」P9,10より引用

STEP 3

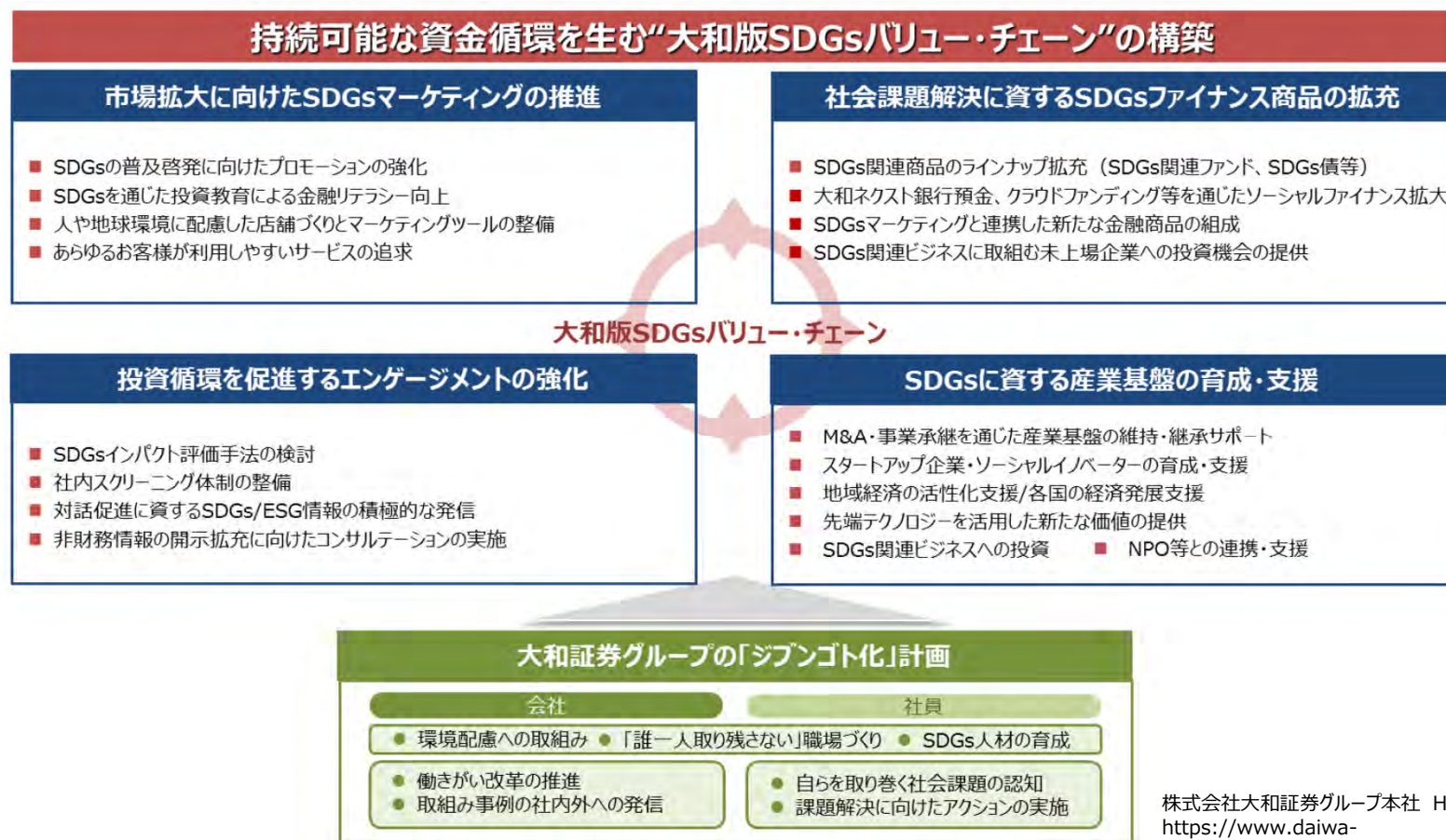
- **目標を設定する**
- 目標範囲を設定し、KPI（主要業績評価指標）を選択する
- ベースラインを設定し、
- 目標タイプを選択する
- 意欲度を設定する
- SDGs へのコミットメントを公表する

Case study

- **大和証券グループ本社様**

大和証券グループ本社様

SDGsを事業に組み込むためにアクションプランを設定



株式会社大和証券グループ本社 HPより引用
https://www.daiwa-grp.jp/sdgs/group_sdgs/

2020年度KPI

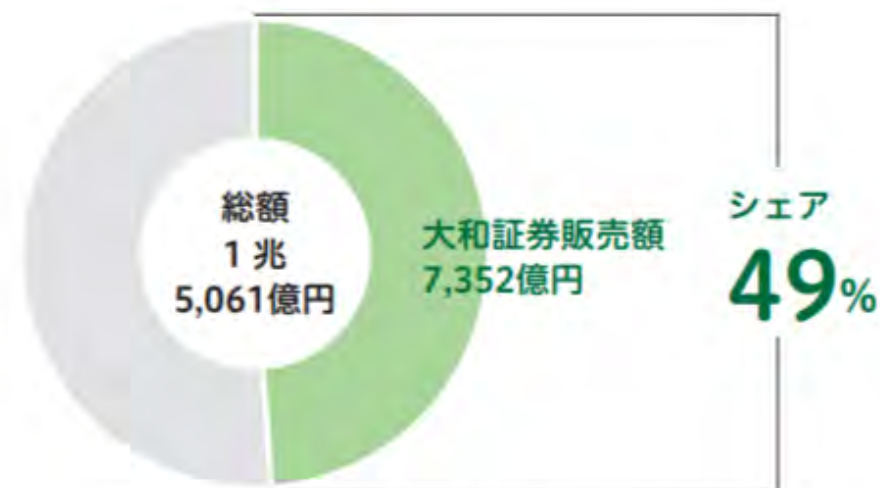
アクションテーマ	KPI	取組み概要
市場拡大に向けたSDGsマーケティングの推進	SDGs研修修了者数	✓ 外部講座を通じたSDGsナレッジの習得
社会課題解決に資するSDGsファイナンス商品の拡充	SDGs債リーゲテーブル	✓ グリーンボンド、ソーシャルボンドなど、SDGsに貢献する事業への資金供給を支援
	応援定期預金残高	✓ 預金残高に応じた寄付による社会課題解決を推進
	SDGs関連ファンドの取扱実績*1	✓ お客様のSDGs/ESGへの関心の高まりに対応し、関連ファンドのラインナップを拡充
	SDGs関連ファンドの純増*2	✓ SDGs/ESGを投資テーマとしたファンドの拡充
SDGsに資する産業基盤の育成・支援	SDGs関連ビジネスへの投資	✓ 再生可能エネルギーおよびインフラ関連投資による貢献
	再生可能エネルギー分野のM&Aリーゲテーブル	✓ グローバルにおける再生可能エネルギー分野のアドバイザー業務を強化
	M&Aリテン件数+事業承継コンサルティング件数	✓ 国内における中小企業のM&Aや事業承継等を通じた地域活性化に貢献
	財団・NPO等を通じた助成実績	✓ 財団・NPO等と協働し、地域・国際社会における様々な課題解決を支援
投資循環を促進するエンゲージメントの強化	個社レポートのESGカバー率	✓ アナリストレポートにおけるESG情報の拡充
大和証券グループの「ジブント化」計画	女性管理職比率	✓ 管理職に占める女性の割合を向上
	CO2排出量	✓ 低炭素社会への移行に向けて、バリューチェーン全体での環境負荷低減を継続

株式会社大和証券グループ本社「大和証券グループの経営戦略」より引用
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/8601/announcement2/58375/01.pdf>

SDGs関連を含む「ハイブリッド型ビジネス」について、 同社における経常利益比率の目標を設定

2023年度で25%、2030年度に35%に設定

2020年3月末時点における個人向けインパクト・インベストメント債券（SDGs債）の国内市場での累積販売シェアは49%と、高水準を維持しています。



（2020年3月末時点における個人向けSDGs債の実績）

株式会社大和証券グループ本社「大和証券グループの経営戦略」より引用
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/8601/announcement2/58375/01.pdf>

STEP 4

- **経営へ統合する**
- 持続可能な目標を企業に定着させる
- 全ての部門に持続可能性を組み込む
- パートナーシップに取り組む

Case study

- **国分グループ本社様**
- **日本生活協同組合連合会様**

国分グループ本社様

自社の経営理念とSDGsが一致するものであると考え、 企業理念のサブワードをSDGsステートメントへ置き換え

トップコミットメント



SDGs ステートメント

300 年間紡いだ商いを、次世代に繋げていく。
私たちは食を通じて世界の人々の幸せと笑顔を創造します。

国分の創業は1712年。第4代国分勘兵衛が現在の三重県松阪市射和より江戸に出て醤油の醸造販売を行い、「食」の商いを始めました。令和の今日まで、社是である「信用」を全従業員が心に刻み、お客様への想いを一つ一つ大切に積み上げ、変化する社会情勢を掴み、お取引先様のご要望にお応えできるよう努めてまいりました。近年、気候危機、パンデミック、貧困や格差等、様々な問題が世界中で起こり、まさに時代の転換期に直面しております。環境・社会・経済に同時に取り組むSDGsの目標達成を1日も早く実現しなければなりません。

国分には「継続する心・革新する力」の企業理念があり、「継続する心」は300余年の紡いできた商いの心と「信用」であり、「革新する力」はSDGsを通じた課題解決そのものであると確信いたしております。

「食」を通じて、世界中の人々が心から笑顔になれるよう、ここに掲げた6つの重要事項を多くの皆様とともに取り組んでまいります。

私たちは長い歴史の中で、醤油の醸造販売から卸売業への事業転換、社会情勢の変化への対応や社会課題への取り組みなど、事業を存続し成長させるため、様々な施策を行ってきました。

2015年、国連にて採択されたSDGs～持続可能な成長目標～は、まさに国分グループが目指す経営理念と一致するものとの思いを強くいたしております。

私たちは行動を明確にするため、企業理念「継続する心・革新する力」のサブワードをSDGsステートメントに置き換え、経営に統合させることから始めます。

また、経営計画にステートメントの達成目標を織り込み、すべての従業員が経営課題として認識し、活動できる体制を整えます。

6つの重要事項は、社会の持続可能性とともに、国分グループの持続的成長に欠かせないテーマです。真摯に向き合い、SDGsステートメント実現のため、様々な施策を加速させてまいります。



代表取締役会長 兼 CEO 国分 勘兵衛

代表取締役社長執行役員 経営統括本部長 兼 COO 国分 晃

国分グループ本社株式会社
「SDGsステートメントブック」裏表紙より引用

日本生協連様

ステークホルダーに対し、 SDGsについてどのように取り組むかを宣言し、 ターゲットと事業における取り組み方針を明記

コープSDGs行動宣言

日本生協連は、2018年6月15日に開催された、第68回日本生協連通常総会にて「コープSDGs行動宣言」を採択しました。これは2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」について、生協もその一端を担うべく、7つの取り組みを通じてその実現に貢献することを約束する行動宣言です。

日本生協連は全国の生協とともに「コープSDGs行動宣言」の7つの取り組みを通じて、引き続き持続可能な社会の実現をめざします。

コープSDGs行動宣言

私たち生協は、SDGs(持続可能な開発目標)に貢献することを約束(コミット)します。

私たちは、「生協の21世紀理念(1997年総会決定)」のもと、助け合いの組織として、誰もが笑顔でくらすことができ、持続可能な社会の実現をめざし、様々な取り組みを進めてきました。誰も取り残さないというSDGsのめざすものは、協同組合の理念と重なり合っています。私たちは、あらためて持続可能な社会の実現に向けて取り組むことを、「SDGs行動宣言」としてまとめました。私たちは、以下の7つの取り組みを通じて、世界の人々とともにSDGsを実現していきます。

■誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します

私たちは、誰一人取り残さず、安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します。自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売や配食事業など、生協の事業や活動のインフラを活用し、地域における役割発揮を進めます。



■持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます

私たちは、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、持続可能な社会づくりをめざします。国内外の人々、そして限りある地球資源へ思いをはせ、商品の開発と供給を進めます。学習活動を通じて、エシカル消費や持続可能な社会に関する理解を促進し、私たち自らの消費行動やくらしのあり方を見直していきます。



■健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

私たちは、食生活、運動、社会参加の視点から健康づくりを進めます。安全・安心はもとより、より健康な食生活に向けた商品事業と組合員活動を推進します。生活習慣病や介護予防など「予防」を重視し、福祉事業や助け合い活動を広げ、自治体や諸団体と連携し、地域包括ケアシステムのネットワークに参画します。



■世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します

私たちは、誰一人取り残さない世界をめざして、世界が抱える問題についての理解を深め、助け合いの精神を貫き、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、話し合う活動を広げ、子ども食堂やフードバンク・フードドライブなどの取り組みを進めます。



■核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します

私たちは、「核なき世界」の実現のために、世界の人々と手を携えて、核兵器を廃絶し、平和な社会をめざす取り組みを進めます。私たちは、次の世代に被爆・戦争体験を継承し、日本国憲法の基本原則である平和主義のもと世界平和の実現に積極的に貢献します。



■地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

私たちは、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対して、意欲的な温室効果ガス削減目標(2030年環境目標)を掲げ、省エネルギーと再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組みます。再生可能エネルギーの電源開発や家庭用電気小売を広げ、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をめざします。



■ジェンダー平等(男女平等)と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します

私たちは、地域における活動を通じて、社会のジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。女性も男性も、誰もが元気に、生きがいを持って働き続けられる生協づくりを進めます。



日本生活協同組合連合会
「生協の社会的取り組み報告書
2019」P4より引用

SDGs行動宣言の具体化にむけ、 「SDGs取り組み中期方針」を策定・更新し、事業の方針・実施計画を設定

生協への期待が高まり、更なる役割発揮が求められる中、日本生協連の中期方針と連動させることを目的に、
昨年策定した「SDGs 取り組み方針 2019」を深化させ中期的な視点での取り組みを記載した
「日本生協連 SDGs 取り組み中期方針 2020-22」を策定しました。

「SDGs行動宣言」と「SDGs取り組み中期方針」の対応表

コープ SDGs 行動宣言	日本生協連 SDGs 取り組み中期方針 2020-2022
1. 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます	① 持続可能な生産と消費のために、食料・農業政策づくりを進めます。 ② エシカル消費対応商品の開発と拡大・普及をよりいっそう推し進めます。 持続可能な社会の実現に向け、エシカル消費に共感できる消費者を社会の中に増やしていきます。 ③ 日本生協連が取り扱う商品について、原料調達から生産・消費までを通して、人権や環境などに配慮した「責任ある調達」ができるよう取り組みを進めます。 ④ 「再生原料」「植物由来原料」を使用した包材への切り替えと減量化を進め、生協事業における容器包装と資材の使用量を削減します。 ⑤ 会員生協とともに、サプライチェーン全体における食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます。
2. 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します	⑥ 会員生協とともに 2030 年の温室効果ガス削減目標（2030 年に CO ₂ 排出量を 2013 年度比で 40%削減）の実現に向け、気候変動対策を推進します。 ⑦ 会員生協とともに 2030 年の再生エネルギー開発目標実現に向け、再生可能エネルギーの電源開発を推進します。
3. 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します	⑧ 国際機関との連携や商品を中心にした活動を通じて、世界から貧困と飢餓をなくす取り組みを支援します。

「SDGs取り組み中期方針」に基づく「実施計画」の設定

<方針②>エシカル消費対応商品の開発と拡大・普及をよりいっそう推し進めます。持続可能な社会の実現に向け、エシカル消費に共感できる消費者を社会の中に増やしていきます

実施計画

- ・「海」「森」「プラスチック」を最重点課題として、環境配慮商品のさらなる拡大と利用促進に取り組みます。
- ・水産部門で ASC/MSC 認証をめざす養殖業／漁業改善プロジェクトに取り組みます（インドネシア・スラウェシ島エビ養殖業改善プロジェクト／広島県カキ漁業改善プロジェクト）。
- ・「洗剤寄付キャンペーン」によって、インドネシア西カリマンタン州の小規模パーム農園の持続可能な生産を支援します。
- ・RSPO 認証パーム油を原料に使用した商品を拡大します。
- ・エシカル消費の種（学習ツール）を使い、エシカル消費（対応商品）の理解促進を進めます。

日本生活協同組合連合会
「日本生協連SDGs取り組み中期方針（2020-2022）」P3より引用

**生協が今後どのようにあるべきか、
全国1,000人以上の組合員を中心に2年間にわたる議論を経て、「2030年ビジョン」を制定
同ビジョン内でSDGsとの関係性、その実現に向けた行動を明確にしている**



2030年ビジョン・メッセージ

ビジョンの構造と、コープSDGs行動宣言との関係



「日本の生協の2030年ビジョン」

- 1. 生涯にわたる心ゆたかな暮らし**
私たちは、食を中心に、一人ひとりの暮らしへの役立ちを高め、誰もが生涯を通じて利用できる事業をつくりあげます
- 2. 安心して暮らし続けられる地域社会**
私たちは、生活インフラのひとつとして、地域になくてはならない存在となり、地域のネットワークの一翼を担います
- 3. 誰一人取り残さない、持続可能な世界・日本**
私たちは、世界の人々とともに、持続可能で、お互いを認め合う共生社会を実現していきます
- 4. 組合員と生協で働く誰もが生き活きと輝く生協**
私たちは、未来へと続く健全な経営と、一人ひとりの組合員と働く誰もが生き活きと輝く生協を実現します
- 5. より多くの人々がつながる生協**
私たちは、より多くの人々がつながる生協をつくりあげ、連帯と活動の基盤を強化します

日本生活協同組合連合会
「日本の生協の2030年ビジョン」P7-13より引用

STEP 5

- **報告とコミュニケーションを行う**
- 効果的な報告とコミュニケーションを行う
- SDGs 達成度についてコミュニケーションを

Case study

- **凸版印刷**

凸版印刷

SDGsをトッパンの成長エンジンと位置付けた「TOPPAN SDGs STATEMENT」を策定



事業活動で推進する「事業活動マテリアリティ」

- 環境（サステナブルな地球環境）
- まち（安全安心で豊かなまちづくり）
- ひと（心と身体の豊かさと人のエンパワースメント）

事業活動マテリアリティの3つのグループは、それぞれが「ふれあい豊かでサステナブルな暮らし」に貢献するものです。また各グループが相互につながることで、その活動はさらに広がっていきます。

企業活動で推進する「全社マテリアリティ」

- 環境配慮・持続可能な生産
- 従業員の健康・働きがい

全社活動マテリアリティの2つのグループは、事業活動の基盤として、事業の3つのグループをしっかりと支えます。

ステートメントを策定するだけでなく、社内外に説明すること・理解していただくことを重視

背景となる考え方

世界中でSDGsを無視した企業活動は許されなくなっている = **リスク**

SDGs視点を持つことは、社会に貢献しながら事業拡大につながるチャンスでもある = **機会**

各ステークホルダーとのコミュニケーションを重視

社外全般

- ニュースリリース
- メディア発信（企業広告）
- コーポレートサイト内特別コンテンツ
- コーポレートサイト内サステナビリティ情報拡充
- サステナビリティレポートでの報告

社内

- キャラバン説明会の実施
- e-ラーニング・研修への導入
- 社内報での連載企画

投資家

- 決算説明会での発表
- 統合報告書での報告
- 株主通信での報告

社内（従業員）：理解・浸透施策

■部門横断型で実施した「SDGs×ビジネス」企画立案ワークショップ

本日の流れ		TOPPAN
1.得意先のSDGs課題を考える…………… 20分	個人ワーク	4. 提案シナリオをまとめる（グループワーク：25分） グループで提案のシナリオをまとめてください 得意先名 SDGsターゲット 企画タイトル 企画内容 連携企業等
2.得意先が解決すべき課題を絞る…………… 20分		
3.凸版のソリューションと紐づける…………… 10分	グループワーク	
4.提案シナリオをまとめる…………… 25分		
5.グループ発表・質疑応答…………… 30分		



最新事例

本日11月13日（金）トッパンSDGs目標「TOPPAN Business Action for SDGs」を公表

News Release **TOPPAN**
2020年11月13日
凸版印刷株式会社

凸版印刷、「TOPPAN Business Action for SDGs」を策定
「ふれあい豊かでサステナブルな暮らし」の実現を目指し、事業で取り組む注力分野を特定

凸版印刷株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:藤 秀雄、以下「凸版印刷」)は、持続的な社会と凸版印刷の「社会的価値創造企業」実現を目指し、SDGs達成に向けた事業での貢献において特に注力すべき分野を特定した「TOPPAN Business Action for SDGs」(以下「本アクション」)を策定しました。

TOPPAN Business Action for SDGs

【基本】持続可能な社会の実現を目指す
ふれあい豊かでサステナブルな暮らし

【環境】持続可能な地球環境
サークラーエコノミーの実現
脱炭素社会の実現

【社会】安全安心で豊かなまちづくり
私らしく生きられる安全な社会の創造
地域に暮らす人々の生活の質向上への貢献
文化を「魅せる・未来に残す」への貢献

【ひと】心と体の豊かさと人のエンパワーメント
食品ロス削減による飢餓撲滅への貢献
ハードルのない教育環境の創造
革新的なデジタル技術による健康への貢献

凸版印刷は、2019年11月に「TOPPAN SDGs STATEMENT」を策定・公表し、SDGsの経営への統合と取り組み強化を宣言しています。その中で、凸版印刷が実現したい社会を「ふれあい豊かでサステナブルな暮らし」とし、凸版印刷の事業を通じて取り組むべき「事業活動マテリアリティ(重要課題)」を、「サステナブルな地球環境」「安全安心で豊かなまちづくり」「心と身体の豊かさと人のエンパワーメント」の3グループに設定しています。

本アクションは、事業活動マテリアリティへの取り組みをさらに加速させるため、代表取締役社長 藤 秀雄を委員長とする「サステナビリティ推進委員会」(以下「委員会」)および委員会の下部ワーキンググループ(以下「WG」)である「SDGs推進WG」の中で経営層・事業部門・経営企画部門が連携を重ね、3グループそれぞれで特に注力していく分野を特定したものです。この9つの注力分野は、事業活動マテリアリティの中でも特に凸版印刷が持つ独自の技術・ノウハウが強みである領域を中心に、2030年の社会を想定したバックカスティングの考え方を踏まえ、策定されています。

凸版印刷は今後、本アクションで定めた各注力分野の取り組みを進めていくとともに、随時進捗報告を行い、ステークホルダーの皆さまと共に「ふれあい豊かでサステナブルな暮らし」の実現に向けたチャレンジを進めていきます。

なお凸版印刷は、事業を通じてSDGsへの貢献を中期経営計画の基本戦略の一つとし、その策定を進めています。

- 1 -

事業活動で推進する「事業活動マテリアリティ」において特に注力するべき分野を特定した「TOPPAN Business Action for SDGs」を策定。

今後、本アクションで定めた各注力分野の取り組みを進めていくとともに、事業を通じたSDGsへの貢献を中期経営計画の基本戦略としてさらに強化してまいります。

TOPPAN Business Action for SDGs



SDGs宣言をスローガンで終わらせないためには

- ☑「既存」の取り組み整理だけではなく、「将来」視点を取り入れた優先課題の特定
- ☑ 事業部門の主体性を引き出す仕組みをつくり、事業部門自らKPIを設定
- ☑ 中計だけではなく、理念・ビジョンにSDGsを統合し、ダブルスタンダードを解消する

トップンでは、お客さまのSDGsへの貢献、ESG経営の推進に向けて、SDGコンパスが示す「5つのステップ」に則ったSDGsコンサルティングをはじめとした、各種メニューをご用意しています。

- ☑ SDGs対応（関連付け、優先課題特定、社内浸透）
- ☑ マテリアリティ（重要課題）特定
- ☑ ガイドライン対応（GRI準拠、SASB、TCFD）
- ☑ ESG格付け対応（MSCI）



・SDGs社内浸透策、ワークショップの実施



・SDGsチェックリストによる関連付け、優先課題特定

目標 1 貧困をなくす 目標 2 飢餓をゼロに 目標 3 健康と長寿を促す 目標 4 質の高い教育をみんなに 目標 5 女性と男性の平等をすすめる 目標 6 安全な水とトイレを世界中に 目標 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 目標 8 働きがい、経済成長、雇用を創出 目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 目標 10 人や国ごとの格差をなくそう 目標 11 住み続けられるまちづくりを 目標 12 持続可能な消費と生産を実現 目標 13 気候変動に具体的な対策を 目標 14 海の豊かさを守ろう 目標 15 陸の豊かさも守ろう 目標 16 公正で平和な社会を築こう 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう	目標 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 目標 7-1 2030年までに、安価で信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する。 目標 7-2 2030年までに、再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。 目標 7-3 2030年までに、エネルギー効率の改善率を倍増させる。 目標 7-a 2030年までに、クリーンエネルギー研究・技術へのアクセスを促進するための国際協力を強化するとともに、同研究・技術やエネルギー関連インフラへの投資を促進する。 目標 7-b 2030年までに、開発途上国（特に後発・小島嶼・内陸）に現代的で持続可能なエネルギーサービスを提供するためのインフラ拡大と技術向上を行う。
---	---

弊社にて意識した169ターゲットリストを活用した活動や製品・サービスとの関連付けの実施